



【プロフィール】循環器内科医師、福岡市医師会成人病センターには2014年4月1日より勤務。

医師
福岡市医師会成人病センター
循環器内科
渡辺 恵さん

渡辺先生は、お家が病院だったため、医療現場を身近に感じていました。地域の方々に感謝されているお父様を誇りに思い、時には別の夢を抱くこともありました。が、小学校の卒業アルバムには「医者になりたい」と綴っていました。

小学生時代、お父様の患者さんをはじめ、地域の方々との交流から学んだ「人との接し方」は、患者さんとのコミュニケーションに役立っているそうです。先生はどんなに進歩する医療について、今も勉強を続けています。困っている人を助けたいという気持ちを忘れず、日々患者さんと向き合っていくたいですと語ってくれました。



おたしが取材しました

池内 彩乃 記者(5年生)

渡辺先生は、循環器内科という所で心臓の病気の人の治りようを調べて、心臓カテーテル検査と治り方やペースメーカーという機械を入れる治りようをされているそうです。お医者さんの仕事で大変な事は、とても責任感が必要なことや、薬などで治らない人をどうやって助けてあげられるか考えることだそうです。学会にも参加されていて、お医者さんの仕事は治りようする以外にもたくさんあることがわかりました。



【プロフィール】数々のコンテストで優勝、EXILEのサポートダンサーなども務める高校生ダンサー。

ダンサー
EXILE PROFESSIONAL GYM福岡校
特待生
松井 大樹さん

物心ついたときから踊っていたという松井さん。お母様の影響で、5歳からダンスを始めたのだそう。小学生時代もダンスの練習に明け暮れる日々。同時に、このダンスや好きな音楽をたくさん見たり聞いたりしていたそうです。

高2にして、既にダンサーとして活躍中の今の夢は、自分のダンスで有名になること。まだまだ夢は始まったばかりと語り、いざれ誰が見てもかっこいいと思ってもらえるダンサーになりたいのだそうです。観客が湧いた瞬間に感じる喜びのため、そして何より踊ることが好きなため、楽しむことを第一に、これからも踊り続けます。



おたしが取材しました

あべ ゆい 記者(3年生)

わたしはダンスをはじめの前の方がいいことを聞きました。たしかトレーニングがいいそうです。そしてダンスは人のまねをするところなんです。その意味がわかるように、このへん強もした方がいいよと教えてくれました。いつまでダンスをつづけたか聞くと「おじいちゃんになるまで」たまたまのひびきしました。さういふ来、のゆめは何か聞くと「みんなのゆめになることがめでした。ダンスの人はゆめがあつていいと思いました。



【プロフィール】日本代表、プロを経て、1996年引退。2013年から「千原ヴァンツ北九州」の監督に就任。

プロサッカー指導者
監督 柱谷 幸一さん
千原ヴァンツ北九州

サッカーの練習に打ち込んだ小学生時代、国体に出ることが目標だった柱谷監督。いつか体育の先生になりたいと思っていたそうです。国体出場が叶い、大学在学中に日本代表に選ばれたことで、サッカーを続けていくために日産

自動車サッカー部へ。その後プロサッカーリーグ(Jリーグ)の発足を機に、プロへの道を選択されました。「その時代の目標を達成してきて今があると語ってくれた監督。引退後、指導者の道を選ばれたのも自然な流れだったとか。今は、目の前のゲームに全力を尽くし、その結果、良い監督と呼ばれる存在になることが目標だそうです。



おたしが取材しました

すーちゃん 記者(5年生)

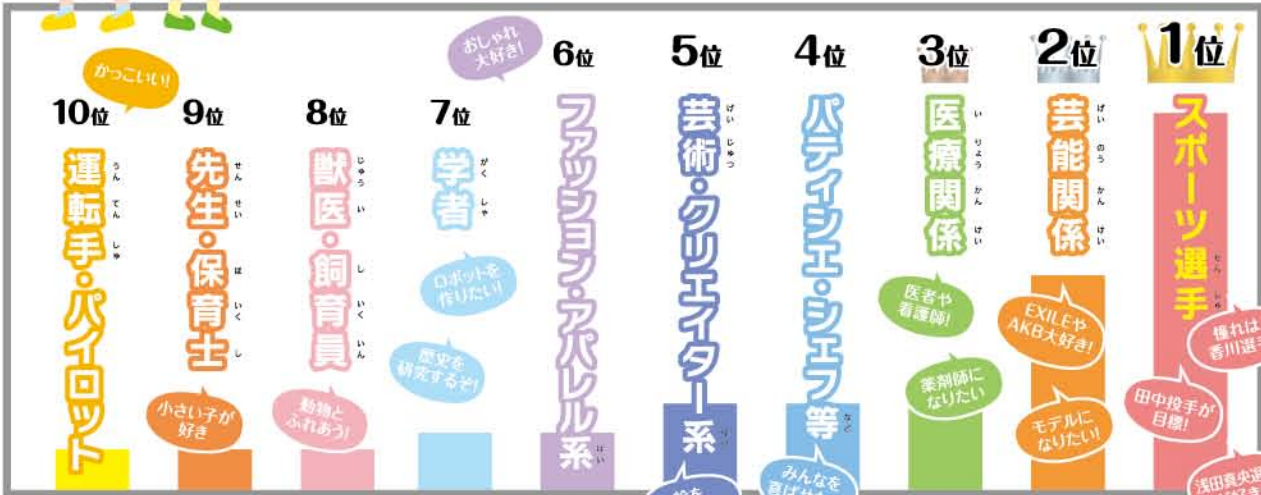
小6で少年団に入り、その時の夢は、まだJリーグが無かったため、国体の選手、27歳でJリーガーになり、日産自動車(現横浜FM)など日本代表のメンバーとして活躍、代表戦で記憶に残るアルゼンチンとの対戦ではマドナのドリブルに驚かされたそうです。当時監督が付けた背番号は11番。ドリブルが手な選手が付けたからです。2017年のスタジアム完成に向け、J1昇格を目指してがんばってほしいです。大事なことは休養、栄養、トレーニングだそうです。

福岡の小学生 273 人に聞きました!

将来の夢 BEST 10

夢を叶えた人にインタビュー

F1 記者(福岡小学生新聞 We can!登録) 小学生記者が行く!



※福岡市内の小学校に通う273名に聞いた将来の夢(We can!編集部調べ、2014.5月集計)

ぼくは今、キャッチャーをしています。来年はピッチャーもようせんしたいと思つていたので、五十嵐選手にインタビューできうれしかったです。ドームのグラウンドに入り、たぐさんの選手をまわかに見る事もできました。五十嵐選手は、いつもバッテリーの嫌いなコースに投げる気持ちで投げていると話してくれました。ぼくも五十嵐選手のように毎日キャッチボールをして、ちゃんとボールがとれるようになり、プロ野球選手をめざしたいです。

ぼくは五十嵐選手に、子どもの頃どのように練習していたかを質問しました。毎日キャッチボール、素振りをしていて、聞くプロになるには「コツ」を努力しないといけないと思いました。次に、大リーグでどのように外国の選手となじんでいたのかを質問しました。恥ずかしがらずに話しかけ、分からない時は何度も何度も聞いていたそうです。ぼくも努力を怠らず、度胸のあるプロ野球選手になりたいです。

りょうが 記者(5年生)

ぼくが取材しました



ぼくが取材しました



ぼくが取材しました

福岡ソフトバンクホークス
投手 五十嵐 亮太さん

【プロフィール】「ヤクルトスワローズ」を経て、2010年にはメジャー「ニューヨーク・メッツ」へ、2013年にホークス入団。

今回の取材で、昔の人は生きていくために好きな仕事ではない仕事でもがんばっていた。そして成功するとは何事にも「所けん命」といふ言葉を心に決めて、チャレンジができる大人になり、将来大きな成功をつかめるようになりたいです。



武富 陽由 記者(6年生)

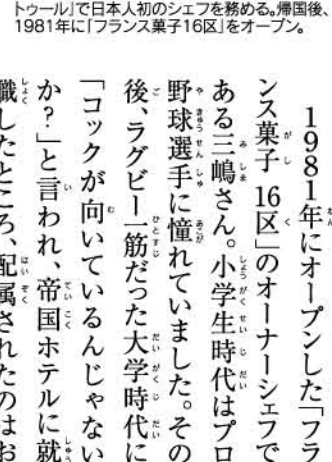


おたしが取材しました

三嶋さんの時代の人たちは豊かな暮らしではなく、自分の好きなことを自由にできなくて大変だったとわかりました。ついに人生をかけることがとても大切なんだと思います。私も努力して、自分の夢のために「所けん命」にがんばろうと思ひました。そして、なにごとも自分ができるようになるまであきらめないこと、続けるために必死になつてがんばることを大事にしたいです。



小嶋 佐和音 記者(6年生)



おたしが取材しました

パティエ
オーナーシェフ三嶋 隆夫さん
フランス菓子 16区

【プロフィール】フランス・パリ16区にある「アパルトマン」で日本人初のシェフを務める。帰国後、1981年に「フランス菓子16区」をオープン。

1981年にオープンした「フランス菓子16区」のオーナーシェフである三嶋さん。小学生時代はプロ野球選手に憧れていました。その後、ラグビー、筋力大学時代に「コックが向いているんじゃないか」と言われ、帝国ホテルに就職したところ、配属されたのはお菓子部門でした。コックの仕事をしたという思いはありましたが、仕事を選べる時代ではなかったため、それからひたすらパティエの道を「所けん命」に続けてこられました。フランスでの修行時代を経て、「16区」が誕生。この福岡の地で愛され続けています。

「小学生のうちにワガママを言つて、たくさん怒られたり、褒められたり、泣いたり、笑ったりしてほしいです」と語ってくれた白川さん。経験を重ねながらも柔軟な発想を忘れないことが、クリエイティブな作品を生み出す事につながるのかもしれない。



【プロフィール】東京オリンピック、人形芝居の映画や、人気アニメなど、数々の作品に携わるKOO-KUの取締役・映像ディレクター。

「KOO-KU」で映像ディレクターを務める白川さん。手掛けたオリジナルアプリ「Mr. shapeのタッチカード」が大人気です。小学生時代は野球選手になることが夢でした。同時に絵を描く事も好きで、当時、いろいろな絵を真似してたくさん絵を描いていたそうです。そのことが今の仕事に生きています。

「小学生のうちにワガママを言つて、たくさん怒られたり、褒められたり、泣いたり、笑ったりしてほしいです」と語ってくれた白川さん。経験を重ねながらも柔軟な発想を忘れないことが、クリエイティブな作品を生み出す事につながるのかもしれない。



【プロフィール】「そうごう薬局 天神中央店」に薬剤師として勤務。処方せんをもとに、安心・安全なお薬の提供を行います。

総合メディカル
薬剤師
吉田 志保さん

子どもの頃から人と接することが好きだった薬剤師の吉田さん。好奇心旺盛で、学校の先生やアニメ声優、リポーターなどに憧れていました。地域の行事には積極的に参加し、さまざまな世代の方と交流。水泳、書道、ピアノなど、いろいろな習い事にも励んだ小学校時代でした。ここで「ものごとを継続する大切さ」を学び、また体力・集中力がついたといいます。「小学校時代は人から学ぶことが多く、たくさん吸収できる時期。さまざまなものに興味を持ち、たくさんの人と関わってほしいです」と語ってくれました。